Ⅳ 指導業務（魚病について）

伊野波　盛　仁

1）“背こけ病”

魚　　種：ギンガメアジ Caranx　sexfasciatus

発生月日：昭和５１年３月２日

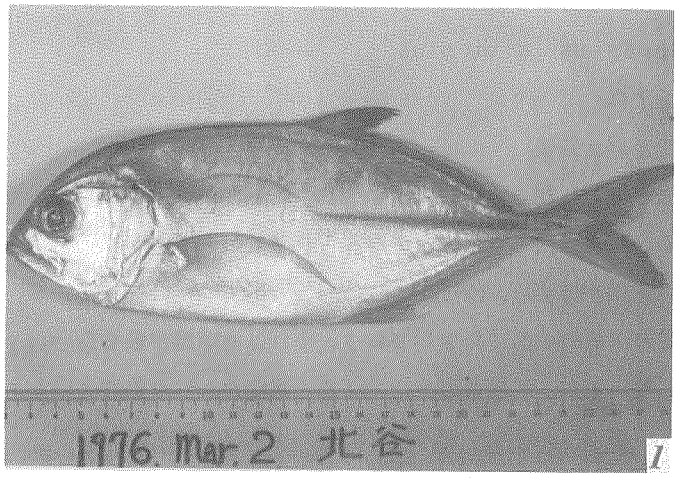
発生場所：北谷村漁業協同組合伊差浜養漁場

症状：後頭部から項部及び躯幹部背側の肉が著しく、そげ落ちていて、よく知られているコイの背こけ病やハマチの“やせ”の外観症状によく似ている。上記症状の他に、同検体魚には背基部に沿う左体側部にスレ症状と鰓病の症状がみられる。内臓諸器官には特に顕著な異常症状はみられない。

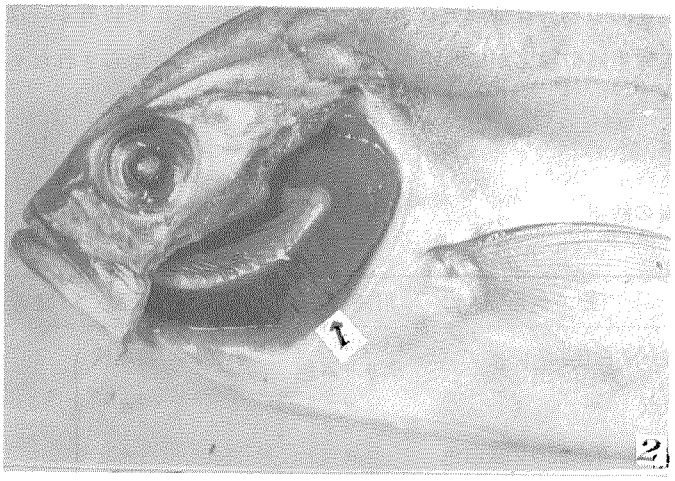
症魚の発生状況：設置放養中の５基の小割網の中で、特定の１基の小割網で毎日２～３尾のへい死魚がでている。当小割網ミナミクロダイやギンガメアジの幼魚（体長４～７㎝）も混養されているが、症魚はいずれも体長２０㎝以上のギンガメアジである。

病因と対策：“背こけ”は漁場環境の老化や汚染の他に鮮度不良餌料とくに変敗脂肪の投与が原因しているようである。

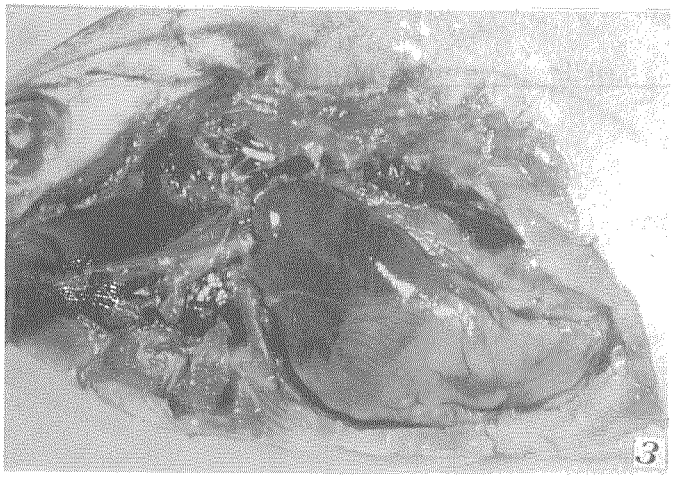
同養殖場は礁湖内を一部堀削したところを利用しており、海水の交換率が小さく、透明度が著しく低い。病魚の発生している小割は同養殖場に注ぐ川口に最も近く設置されていること、また鰓病の症状がみられること等から同養殖場の水質条件は好ましくないものと推測される。他方変質した冷凍サバも投与されているようでありこれらのことが本病発生の原因になっていると考えられる。



① 頭部から後頭部及び軀幹部背側にかけて著しい肉の落ちがみられる。



② 鰓葉中央部に鰓弁のゆ着がみられる。（↑印）



③ 内臓器官

2）貧　血　症

魚種：ミナミクロダイ Acanthopagrus sivicolus

発生年月日：昭和５０年１１月２７日

発生場所：北谷村漁業協同組合伊差浜養殖場

症状：症状については第１表と図版に示した。特異的症状は鰓葉、肝臓が白っぽくなり著しく貧血症状を示していることである。体表には小さな出血斑がみられるものもある。

発生状況：１週間ほど前からへい死魚が出始め、現時点では毎日４～５尾ずつへい死している。設置してある５つの小割中、特定の１基の小割に発生しており、それは養殖歴が最も長い。１月程前からサバの冷凍魚を給餌しているが、同漁協の係員によると鮮度がかなり落ちていたようである。

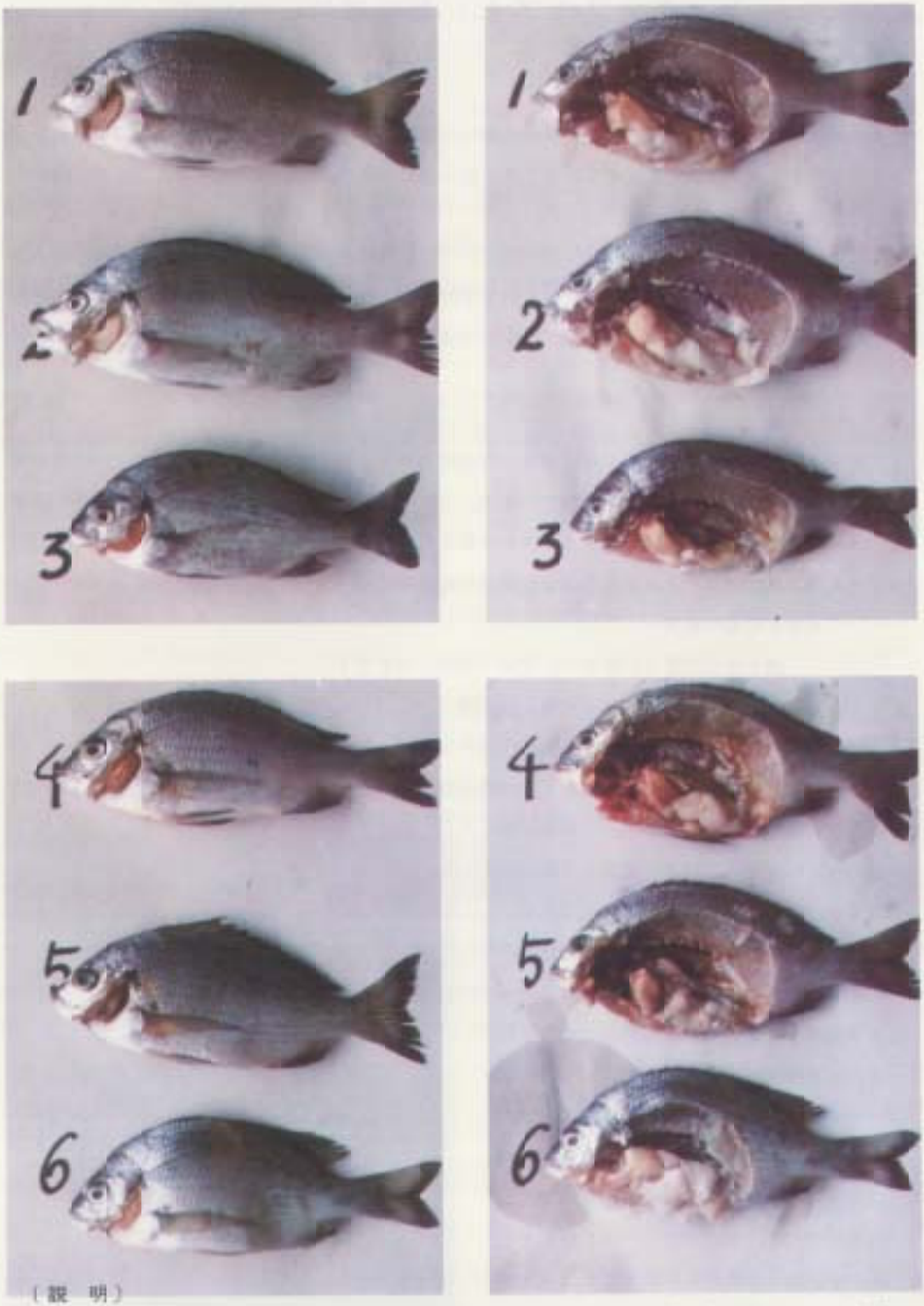
原因：本症状と養殖マダイにみられる貧血症とは著しく類似している。たゞしマダイでは、ほとんど１～４月頃多発している。今回の場合と時期的な相異がみられるが、酸化脂肪あるいは過脂肪飼料の投与による脂肪の代謝生殖の障害が低水温（水温下降）によってもたらされたものと考えられる。

表－1　外観症状と剖検の結果

（魚種　ミナミクロダイ）

体長(mm)	体重(g)	外観症状	鰓の色と状態	肝ぞう	ひぞう	腎臓	備考
① 165	160	特にない	白色	白っぽい クリーム色	小さい	萎縮状	
② 175	205	腹部に２～３出血点	〃	〃		〃	
③ 152	132	特にない	赤点混りの淡白色	〃		〃	
④ 165	162	胸部、腹部に出血点	赤褐色粘液	褐色にうっ血	小さい	〃	
⑤ 165	168	垂直ヒレ、胸ビレ基部に出血斑	〃　〃	〃		〃	
⑥ 163	158	特になし	黄白色	白っぽい クリーム色	小さい	〃	

図版－1



（説　明）

同番号は同一検体である。①、②、③、⑥の肝臓は白色豆腐状　顕著な貧血症である。体側には小さな出血斑のあるスレ症状がどの検体にも認められる。